

ぶ らく さ べつ もん だい

# 部落差別問題

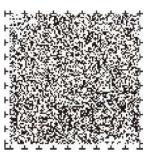
## マイクロアグレッショントリック “ささいな” “見えにくい” **攻撃**

発する側には相手を傷つけたり差別したりする意図はないものの、社会的マイノリティ(少數派)に対する無知や存在の無視、偏見や差別意識が伝わる言動のことをマイクロアグレッショントリックといいます。この言葉は、精神科医によって作られました。その後、人種主義や偏見に関する研究がされる中でパターンが整理されました。現在では人種差別に限らず、部落差別、性差別、外国人差別、障がい者差別などについてもマイクロアグレッショントリックは注目されています。

相手を傷つける意図の有無ではなく、意図がなくても相手の心に針でチクッと刺したような痛みを与える行為です。

発言した人は、自覚も悪気もないつもりでも、実は人権問題やマイノリティに対する無理解や偏見があり、相手を個人として尊重する意識や態度に欠けているのかもしれません。

不特定多数の人からマイクロアグレッショントリックが繰り返されることで、受けた人のダメージはだんだん大きくなっています。けれど、マイクロアグレッショントリックを行う人は、たいていの場合、自分の無知や偏見に気づかず「自分は差別していない」と思っています。また、言われた側の受け止め方も人によって異なります。そのため、被害を訴えるマイノリティに対して「過剰反応」や「何も言えなくなる」と非難したり、「差別をした人」とされたことに不快感を露わにしたりして、マイノリティを追い込んでしまうことがあります。

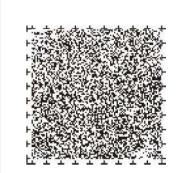


## い 言われた人、聞いた人=マイノリティ(差別を受けた人)



部落差別をはじめあらゆる差別について私は「知らない」「周りにはない」「どこかちがう場所の話」「関係ない」「関心がない」「差別意識はない」「部落差別はもうない」「騒ぎ立てるからなくなる」と、思っている人はいないでしょうか。そのような「**無知・無理解・無関心・無関係**」がマイクロアグレッショングを起こしてしまうのです。

差別に気づいていながら「何もしない」という選択をすることは、差別を容認・温存・助長・拡大することにつながるのではないかでしょうか。



# 「無自覚な差別」 (マイクロアグレッショング)

## 部落差別におけるマイクロアグレッショング

ある日、被差別部落出身のAさんが働く会社で、部落差別問題をテーマにした人権研修がありました。

研修後、先輩と同僚の会話を偶然聞いてしまったことで、

Aさんは悲しいような腹立たしいような気持ちになりました。

同僚：「私たちみたいな若い世代は、部落差別なんて、

別に気にしないですよね！」

先輩：「だよねー。私も被差別部落の友達いるし！」



Aさんは職場の人に被差別部落出身であることを話していません。

Aさんは同僚らの発言に心を痛めながらも、黙ってやり過ごしました。

Aさんはなぜ悲しいような気持ちになったのでしょうか。

なぜ何も言わなかつたのでしょうか。もしかしたら言えなかつたのかもしれません。

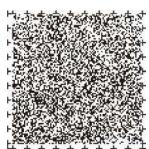
Aさんはこれまでにも同じような経験をしたことがあります。

## 学校の人権学習の前、クラスメートの会話

午後の授業、  
部落差別だって。  
ダルイよな～。

ね  
寝るかも…

このクラスメートの発言は、「自分はこの問題を学び、解決するつもりがない。」  
というメッセージになります。知らないうちに誰かを傷つけたり、差別したり、  
差別をされたりしないように正しく学ぶ必要があります。



## 外出先で偶然聞こえた会話

〇〇(被差別部落の地名)の人は言い方がキツイよね。



### ▶▶ 属性によって決めつける発言

被差別部落の人は発言がきついと限定し決めつけるのは、そこに住んでいる人や出身者にとっては、嫌な思いをさせられるのももちろん、自らのアイデンティティを否定されてしまうことにもなります。私たちは「〇〇は△△だ」とその属性で個人の特性を決めつけてしまうことがあります。そのような決めつけられ方をしてしまうとどう感じるのか、自分に当てはめて考えてみましょう。

## 友人に、被差別部落出身であることを思い切って打ち明けた時



気にしないよ～。  
どこに生まれたとか  
関係ないよ。  
みんな同じ人間だよ～

### ▶▶ 打ち明けた人の思いや経験を受け止めない発言

思いきって打ち明けた人は友人のこの言葉を聞いてどんな気持ちでしょう。理解してくれたと安心したでしょうか。自分事として受け止め、寄り添うためにできることは何か。一緒に考えてみることが大切です。



どこが“そういう”地域とか、  
だれが“そういう”人とか、  
ぼくは知らないから  
差別しようがないでしょ。

## 職場の人権研修での発言

### ▶▶ 身近に存在していることを理解していない発言

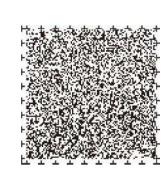
部落差別があることで、今も傷ついている人の現状を学習し、部落差別のない社会の実現に向けて行動しましょう。

## Aさんの気持ち

良かれと思って言ってくれているんだよね。  
でも居心地悪い。  
考えすぎ? モヤモヤする。



これって差別なの?  
悪気はないんだろうけど…。  
注意したほうがいいのかな?  
心がチクチクする。



かきじれいさんこうかんが  
下記の事例を参考に考えてみましょう。

## じれい 事例1 「私は差別しないよ」

- ・差別「する」「しない」じゃなくて「ある」ですよ。
- ・差別しない人っていらないんじゃないかな。  
私も気づかぬうちにしていると思う。
- ・差別しないでいられるように、学びたいよね。
- ・差別をしない人を増やすにはどうしたらいいと思う？
- ・私は差別しないよって言われてうれしいとは限らないよ。



## じれい 事例2 「気にしすぎじゃないの？」

- ・気になるような環境があるってことだよね。
- ・私だったとしても気にしてしまうと思う。
- ・気にしないでいられる人は恵まれているね。  
そうじゃない人のこと考えてみようよ。
- ・気にしちゃう側の問題なの？
- ・その一言で友達がつらくなった時に相談してもらえない  
なるかもしれないよ。
- ・私は相談してもらえる友達でありたいな。

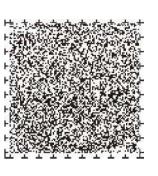


ことばひょうじょういきいぎひょうげんたいおう  
言葉でなくても、表情やアイコンタクト、ため息などで、異議を表現する対応もできるか  
かもしれません。

みなさまも聞いてモヤモヤした言葉について対応のアイデアを、ぜひ考えてみましょう。

## マイクロアグレッショントリックを知って考えたいこと

マイクロアグレッショントリックをしないことだけをめざすのではなく、ちがいのある他者と豊かな関係を築こうとすることが大切です。そのためにはまずは、受けた側はどのような思いになるのかを知ろうとすることや、マイクロアグレッショントリックが身近にないかを考えることが必要です。



# 『アライになろう』

## 「アライ」とは

英語の「Ally」(仲間・同盟)を表す単語で、セクシュアルマイノリティの味方(理解者・サポーター)でいようとする人たちが表明する際に使われてきました。最近ではセクシュアルマイノリティに限らず、さまざまなマイノリティの側に立ち、理解・支援を表明しようとするときに、アライという言葉を使うことがあります。

差別的な言動を向けられた当事者の側に立ち、理解、支援を表明する言葉・行動を皆さんも一緒に考えましょう。

日常の他愛ないやりとりの中でマイクロアグレッショ n に気づいた時、私たち一人ひとりにできることは何でしょうか？そこには、気づいていないだけで、傷ついている人がいるかもしれません。あなたは、どんな言葉で、マイクロアグレッショ n に対応しますか？どんなふうに、ひとつりと傷ついているかもしれないマイノリティを支え、寄り添うことができるでしょうか？

